

大分教育事務所訪問②-65 (計138)

大分市立明野中学校に学ぶ 学校経営から学ぶ

学校の教育目標「人間性豊かで、知性にあふれ、心身ともにたくましい実践力のある生徒の育成」を達成するために、「自分たちの自治力で活動する生徒」の育成と、教職員は「協働体制と機動力」を掲げています。そして、「ICTを活用した授業改善」「明中授業スタイルの確立」「自主性・自治力(学校づくり)」「自主性・自治力(学級づくり)」「思いやる心」「生徒支援」の6つのチームがそれぞれの取組指標を定め計画的に実践を行っています。

今後は、協議の際に確認した「言葉の力、表現力」のように、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、より明確にされてみて

はいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることができます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながるとが期待されます

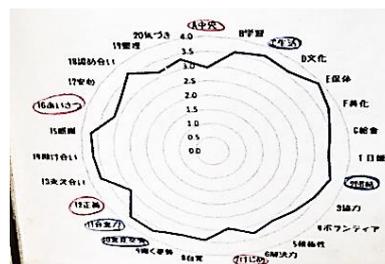
参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 pp48—52 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア 言語能力

授業から学ぶ

本校は「うれしい授業」を授業力向上のテーマとしています。そのため、生徒ができるようになって「うれしい」、発表ができて「うれしい」等、生徒が「うれしかった」と感じる授業

をめざしています。校長先生も日常的に授業を観察され、提案授業においては教師や生徒の良い所を中心に示しながら、他の先生方にも伝えていきます。そのため、今回参観した授業においても、男女の仲が良く教室内で自分の意見を言えるいい雰囲気があり、お互いを認め合えることができていました。

今後は指導案を作成する際、ねらいについては、「追求対象、着眼点、到達点」の視点で作成されてみることや、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして表記してみてもいいかがでしょうか。そして、教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思われました。



書くことは

「聴いた事」「話したい事」「伝えたい事」を整理するために、書いているのです。



目線がそろろう

学び合うときは相手軸。思いやりの気持ちをもって、相手の考えを聴くから、学びが深くなる。



無言のメッセージ
拍手には「すごい」「がんばったね」「同じだよ」「そうきたか」というメッセージがある。拍手をする人は学ぶ人でもある。



うれしい授業
生徒達ができるようになった。生徒の学び合う姿が見れた。生徒と共に、教師の指導力が向上した。今日もうれしい一日。



仮説検証

実験の前には予想する。そして、いろいろと工夫しながらやってみる。みんなで考えを出し合う。だから、理解が深まり定着する。